

## ○小泉改革は失敗だった

そろそろ解散風が吹いてきたようです。これまでの国会とは状況がすっかり変わり、政府の出してくる法案に私たちが修正を提案すると与党はこれを丸呑みして成立させることが続いています。金融商品取引法、政策投資銀行法などは私の委員会の所管ですが、他に、タクシーの開業規制、エネルギー基本法などほとんどの法案が与野党話し合いの中でスムーズ(?)に通っています。さらに、こうした法案のほとんどが、小泉政権時代の行き過ぎた規制緩和と民営化路線に支障が出てきて、そこを見直す「揺り返し法案」とも言えるものばかりです。こうした流れの極め付けが、日本郵政株式会社の西川社長と鳩山総務大臣の泥仕合です。自民党総裁である麻生総理には、「小泉改革は失敗だった。」と言い切って再出発をすることはできないでしょうから、せめて解散・総選挙で郵政選挙以降の総括と再出発をしたいものです。

## ○財政赤字増加は、国債を蝕む

イギリスの格付機関「フィッチ・レーティングス」が、取材に来ました。この会社は英国に本部を置いて、「スタンダード&プアーズ」や「ムーディーズ」に次ぐ世界第三位の格付け会社だと言われています。焦点は日本の国債。日本の財政規律を、民主党、特に財政の責任者はどのように考えているかということです。

先日政府が示した試算、「消費税を段階的に12%まで引き上げることで、基礎的収支を今後10年以内に黒字化する。」という中期計画に対しては、「日本の財政赤字は悠長なことを言っておれる状況ではない。時間的な余裕は、日本にそんなには残されていない。」と、彼らは厳しい警告を発しています。言外に、このままでは日本国債の格付けを下げざるを得ないと言いたいのだと理解しました。

「まずは税金の無駄遣いを徹底して整理すること。その約束を果たすことで国民の信頼を得る。これなくして、今の政府のように消費税を上げるといっても国民は納得しない。将来、消費税や所得税の増税が必至であると私たちも認める。国民の理解を得るためには、まず、政治の信頼を取り戻すことが第一。民主党はここを出発点にして、将来の人口の高齢化にともなう歳出増を賄うために消費税増税を考えている。」と、説明しました。

「日本政府は国債を海外市場で売りさばこうという努力を始めたようだが、この試みをどう思うか？」と訊かれました。

「仮に海外で売れたとしても、リスクを抱えることになる。

以前のアジアの金融危機で韓国などが直面したように、海外市場の状況によって、国債が売り浴びせられることにでもなれば、円が暴落し、日本が破綻に直面する可能性もある。」と、答えました。しかし、このままの状態でも推移をしても、日本の貿易黒字は減少し続け、それに連動して、国内の貯蓄率も下がり続けるわけですから、これまで日本国債を買い支えていた日本国内の貯蓄(余剰資金)も減少していくことが予想されます。現に、貯蓄率は下がり続けていることで、この巻き返しが始まっているとすれば、「日本には、そんなに時間はない。」と断じている格付け担当者の意図が理解できます。私たちも、ページ送りを早くしたいのです。

## ○臓器移植法と国民投票

臓器移植法の改正案の採決がありました。私は、年齢要件なしで家族の同意を重んじて現状を前に進める「A案」を選択しました。党議拘束を外して議員個人の判断に基づいての投票であったこと、4種類の改正案を提出の順番に採決して過半数に至った案を成案とし、他は採決もされなかったことなど、投票はしたものその後味の悪さが残りました。

私の持論は、こうした個人の生命観や倫理観を問う問題は、議員による議決で決すべきではない。国民投票にかけて国民に直接信を問うべきだということです。憲法改正での国民投票法の議論があった時に、憲法改正だけでなくこうした問題も国民投票法の中に織り込んで法制化すべきだと強く求めました。次にまたこうした課題が出てくるまでに、国民投票法をぜひ作らなければなりません。

## ○政策セミナー・資金支援に心から感謝

先日は、地元四日市での恒例の政策セミナーに沢山の皆さんにご参加いただきました。献金に代わる「パーティー券」を購入いただいて、多くの財政支援をいただいたこと、心から感謝申し上げます。景気の激しい落ち込みの中で、お願いしなければならなかったこと、大変恐縮しています。

今月末には東京でも政策セミナーを開催させていただきます。

6月29日(月)13時半～ ホテルオークラ別館「アスコット」、講師は前回に引き続き、BNP パリバ証券の河野龍太郎さんです。

多くの皆様のご来場、お待ちしております。

中川正春